

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070501190		
法人名	有限会社ひまわり介護サービス		
事業所名	グループホーム太田サンフラワー		
所在地	群馬県太田市台之郷町307番地		
自己評価作成日	平成28年7月13日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	平成28年8月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・基本理念に基づき運営方針を着実に実施する。 ・利用者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援している。 ・常に利用者の立場になり考え、利用者の行動の意味を掘下げ、その利用者にあったケアをスタッフで統一する。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

共用空間が広々しており、椅子に座りながら中庭の芝生や人の動き、天気が分かり、落ち着いた環境である。デイサービス利用者もおり、利用者同士の会話が聞こえ地域のニュースを聞くこともできる。車いすは移動の手段ということを意識した支援がされており、食事の時はテーブル用の椅子に移り替える等の工夫をして安心して楽にいられるケアを提供している。玄関の出入りが分からない様な造りになっており、デイサービス利用者の送迎時でも入居者に影響を与えないような配慮ができています。
--

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を全職員で共有し、日常業務に活かしていくため、朝礼時の唱和、ミーティング、引継ぎ等の中で話し合い、確認し合っている。	理念を支援の現場にどう落とししていくのかを工夫している。リーダーが理念を下に目標を決めたり、職員同士でミーティングの場で話し合いながら実践に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民の一員として敬老会、いきいきサロン、その他行事等、地域活動に積極的に参加している。また、地域の方々には、ホーム主催の行事に参加していただき交流を深めている。	いきいきサロンへは交代で参加し、地区祭りへの参加、廃品回収、回覧板を届けに行くこと等で利用者も地域の付き合いに参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から随時、認知症の相談を受けている。また、人材育成の貢献として実習生の受入れも積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者、家族、行政、自治会関係者に参加していただき、ホームからの説明、報告とともにメンバーから意見、要望を受け、それらをサービス向上に活かしている。	併設の事業所と合同で定期的開催され、地域住民や市の関係者等が参加して事業所の現況報告や時期のトピック等が説明され、災害訓練も行われているが、家族の参加が少ない。	全家族に開催案内を出し、議事録等で内容を報告して出席を促してほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただいたり認定更新等の際に情報交換するなど市のご協力をいただき、サービスの質の向上に取り組んでいる。	必要な報告や空き情報、分からないことは管理者や法人の担当者が、介護保険の更新代行にはケアマネジャーが窓口に出向き連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員がミーティングや研修等で身体拘束について正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。なお、職員の見守り等により玄関は施錠していない。	玄関と共用空間は昼間は開錠されている。ふらっと外に出る人や立ち上がろうとする人には一緒に出掛ける等、対応の仕方をケアプランに盛り込み、職員が共有するようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等を実施し、虐待の防止について理解を図っている。また、常に虐待が見過ごされないよう防止に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護、成年後見に関する制度を内外の研修を通し、理解を深め活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の際は、利用者、家族の不安・疑問点を良く聞き、時間をかけて説明を行い、理解・納得が得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族等とは、何でも話せる雰囲気作りをしており、意見、要望等はミーティング等で話し合い、運営に反映させ改善に努めている。	本人からは日頃の会話の中から食事の形態や嗜好等の希望を聞いている。家族からは面会時に本人の現在の状況を伝え、双方（本人と家族）が納得できるように、必要なことは反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者と職員とは、日頃からコミュニケーションを大切にし、打ち合わせ等の際、職員から意見を聞き、その意見を元に改善に努めている。	職員から意見が出しやすいように会議の場（カンファレンス時）以外にもミーティングや申し送り時に話し合い、必要に応じて場所を設けて意見等を聞いている。連絡ノートも活用している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のレベル向上は、施設のレベル向上に直接つながると考えている。新しい資格への挑戦を促したり、各自がステップアップを図っていけるような助言など、就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が中心となり指導、勉強会等を行っている。また、職員には事業所外で開催する研修等の受講を推進している。研修結果は、報告書を提出させ、ミーティング等の際に発表する等、その成果を共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会への参加や、近隣のグループホームの職員との交流活動を通じ、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人に会って、困っていること、不安なことや希望などを良く聴いて安心してもらう等、誠実に対応することにより信頼関係作りをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に料金等の説明は勿論のこと、家族が困っていること、不安なことなどをよく聴き、真に受け止め、誠実に対応することにより、信頼関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の実状や要望から、何を必要としているのかを見極め、他のサービスも含め、より良い対応ができるよう説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と一緒に過ごす時間をできるだけ多く持ち、喜怒哀楽を共にすることで信頼関係を構築している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの利用者の様子などを家族に伝えることにより、本人を共に支えていくための家族との協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理・美容院や、スーパー等での買い物にいくことを支援するなど、一人ひとりの生活習慣を大切にしている。	家族との買い物や外食に出かけたり、仏壇を持ち込み墓参りを続けている。親戚や知人が面会に訪れている。編み物教室を法人で開催し、馴染みがあるので参加している人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性、長所を最大限に表現出来る様にして、利用者同士がより良い関係を持てるように職員が間に入って支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、退居先の病院等を訪問し、声かけをしたりしている。事情があり、他の施設へ移っても、相談等にはできる限りのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症だから聞いても無理と決めつけない。日々の行動や表情などから利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。把握が困難な場合には、家族や関係者から情報を得ている。	会話のできる人からは直接聞き取りを行い、困難な場合は日常の様子や言動等から推察している。家族からは面会時や電話で希望を確認し、出された意見はカンファレンス等で検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の方から生活歴を聞いたり、本人とのコミュニケーションの中から、今まで歩んできたことの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、排泄、入浴、バイタルチェック等や一日の暮らしの中の行動から、本人の状況を総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族から、日頃の関わりの中での思いや意見を聴き、介護計画に反映させている。また、アセスメントを基に全職員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行って介護計画を作成している。	ケアマネジャーが毎月モニタリングを実施し、職員と内容の確認や調整を行っている。定期的な介護計画の見直しは、アセスメントと共に3ヵ月毎に行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員は随時、利用者の状態を介護記録及び申し送り状に記録し、全職員が申し送り時に確認している。これらの記録は実践及び介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせて、通院や送迎等の支援において柔軟な対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア等を随時、受入れしている。民生委員、消防関係や警察などの協力により、施設周辺の安全性の確保に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望する馴染みのかかりつけ医の受診を支援している。また、協力病院とも連携し、適切な医療を受けられるようにしている。	入居時に説明し、かかりつけ医の継続か協力医に変更できる。かかりつけ医の場合の受診は基本的には家族だが、職員も支援できる。協力医は2週に1回往診している。歯科や眼科等は必要時に適切な受診支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置し、看護師・介護職員が共に相談・協力し合い、情報を共有しながら日々の健康管理や状態変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護支援専門員と看護師が医療機関と連絡を密にし、状態の確認や退院の見込みなどを把握し、状況に合わせた的確な対応をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取り介護について、本人、家族に説明を行い同意を得ている。情報は共有し、キーパーソンの家族と話し合い、本人が最後まで安心して生活できるように支援している。	指針に則って家族の希望があり、条件が整えば看取り支援を行う体制がある。24時間対応の協力医もあり、協力医が終末期に向けた研修を近隣の住民も参加して実施した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の普通救命講習へ毎年職員が参加し、技能を習得している。応急手当については、看護師の指導のもとに訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に利用者が安全に避難できるよう消防署立会いで年2回の総合防災訓練を行っている。その際は地域の方々にも参加していただいている。	併設の事業所と合同で年2回の総合訓練に加え事業所独自の訓練を実施して災害時に備えている。運営推進会議時に地域住民と共に訓練をしている。備蓄として水と食料を用意している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の自尊心を傷つけるような言葉や対応について、研修やミーティングを行い、職員同士注意し合って対応している。個人情報の取り扱いについては、マニュアルをもとに全職員で取り組んでいる。	尊厳を損ねないように支援時の声掛けや言葉を選び共有している。入浴時に一人で入りたい人には入ってもらい、利用者同士の相性に配慮しながら気持ちよく生活できるように支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どんな行動についても否定しないで、その行動の意味を探り、内容に応じた適切な対応に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決めているが、それを優先するのではなく、利用者一人ひとりのペースに合わせた暮らし方ができるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好きな身だしなみやおしゃれができるよう支援している。馴染みの理・美容院などを利用したい方には、意に沿うよう個別に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、旬の食材や新鮮なものを探り入れるなど、美味しく食べられるよう工夫している。食事中は、職員が同じテーブルに着き、和やかな雰囲気づくりをしている。	ご飯と汁物を事業所で用意しその他は外注している。畑で作った野菜を食卓にあげ楽しんでいる。きざみ食等は常食の形態を見てもらい、どうするか聞き、希望でいったん下げて食べやすい形態に変えている。	献立の分かりやすい案内やお茶の時間に何が飲みたいか利用者に聞き、希望の飲みたい物を提供してほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調等を把握し、バランスのよい食事の提供を心がけ、水分補給などの調整も気をつけている。特に夏季等には、水分補給を重点項目に掲げるなど注意して対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床、食事の後など、歯磨きと入れ歯の手入れ支援及び見守りをし、更に日常、うがいへの誘導を心掛けている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できるよう、尿意・便意の時間や習慣を把握し、自尊心を傷つけないようトイレ誘導をしている。失敗しても周囲に気付かれないように対応している。	チェック表を活用し、時間で誘導したり、夜間もコールを押して出てくる人には誘導している。誘導時には他の人に聞こえないように配慮し、その人独自のサインを見逃さないように注意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちの方には、水分を多めに補給していただいたり、食事に食物繊維、野菜を多く提供している。また、散歩やおなかのマッサージを取り入れる等、工夫し排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者のその日の状況を確認し、声かけ等による意思確認の後、入浴していただいている。仲のよい方同士が一緒に入りたい場合など、その意向に沿うようにしている。	基本的には2日に1回入浴日を決めている。時間は午前10時から午後にかけて支援し一人で入れる人には一人でも入ってもらい見守りが必要な人は1対1で支援している。入りたいと申し出る人や入りたくない人等個別で支援している。	入浴できるということを毎日各利用者に知らせ、入りたいという希望があれば支援してほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活リズムを崩さないよう、状況に合わせて休息をとっていただいたり、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬できる利用者は見守りをして確認し、できない利用者は職員が管理し、その指示通りに服用していただき、症状の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、その人のもっている能力に合わせた役割を担ってもらい、楽しみながら気晴らしができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近隣への散歩や、季節の花見、外食、ドライブなど、外出を積極的に支援している。外出が困難な方でも、ホームの庭でお茶会をするなどして気分転換してもらっている。	日常的にはホーム周辺の散歩や中庭でのお茶会で風にあたる機会がある。季節ごとの花見や家族との外出、事業所の旅行などで家族と出かける機会を設けている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務室で管理し、時々お小遣い帳を見ていただき現在高を確認していただいている。外出時には、本人がお金を持って支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用する際には、他の利用者に配慮して使用していただいている。手紙は、職員と一緒に、散歩や買い物途中でポストに投函するなど、十分な配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花等を飾ったりして、利用者が自分の住んでいる家のように居心地よく過ごしていただけるように工夫している。フロアの飾りつけ等は、利用者と職員が一緒に考えて行っている。	天井が高く、畳の部屋や複数のテーブルと椅子、ソファが置かれ、落ち着いた雰囲気がある。車椅子からテーブル用の椅子に移り替えている。中庭の芝生や外の人の動き、天気が良く分かる。玄関の出入りが分からない造りになっており、送迎時の配慮ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	季節に合わせた配置換え、気が合う利用者の同席等の配慮をしている。また、リビングにソファを置き、利用者が気軽にくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前から使用していた馴染みの家具や思い出の写真などを持ち込んでいただいている。使い勝手のよい慣れたものを使うことで、利用者の居心地の良さや安心感にもつながるよう配慮している。	ベッドとエアコンが設置されており、家族が用意したテレビやタンス、衣装ケースが置かれている。ポータブルトイレが置いてある部屋もあり、排泄用品や服は収納戸棚に整理されている。不快な臭いは無い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の低下を補うため、手すりの設置、玄関のスロープ化など実施している。また、一人ひとりの「わかること」を活かして、必要な目印をつけたり、物の配置などの環境整備に努めている。		